

事例番号:340170

原因分析報告書要約版

産科医療補償制度
原因分析委員会第三部会

1. 事例の概要

1) 妊産婦等に関する情報

経産婦

2) 今回の妊娠経過

特記事項なし

3) 分娩のための入院時の状況

妊娠 35 週 0 日

時刻不明 妊婦健診のため搬送元分娩機関を受診

10:24- 胎児心拍数陣痛図で基線細変動の減少、遅発一過性徐脈を認める

時刻不明 血圧の急上昇(193/117mmHg)と尿蛋白(3+)あり

12:10 胎児心拍数異常と胎動減少を認め当該分娩機関に母体搬送となり入院

4) 分娩経過

妊娠 35 週 0 日

13:01 胎児機能不全の診断で帝王切開により児娩出、骨盤位

5) 新生児期の経過

(1) 在胎週数:35 週 0 日

(2) 出生時体重:1400g 台

(3) 臍帯動脈血ガス分析:pH 7.12、BE -9.5mmol/L

(4) アプガースコア:生後 1 分 6 点、生後 5 分 7 点

(5) 新生児蘇生:人工呼吸(バック・マスク)

(6) 診断等:

出生当日 極低出生体重児、早産児

生後 2 日 血圧低下あり

(7) 頭部画像所見:

生後 6 日 頭部超音波断層法で脳室内出血 2 度

生後 35 日 頭部 MRI で脳室周囲静脈梗塞を認める

6) 診療体制等に関する情報

〈搬送元分娩機関〉

(1) 施設区分:診療所

(2) 関わった医療スタッフの数

医師:産科医 1 名

看護スタッフ:助産師 1 名

〈当該分娩機関〉

(1) 施設区分:病院

(2) 関わった医療スタッフの数

医師:産科医 2 名、小児科医 1 名、麻酔科医 2 名、研修医 1 名

看護スタッフ:助産師 5 名

2. 脳性麻痺発症の原因

(1) 脳性麻痺発症の原因は、脳室周囲出血によって生じた脳室周囲静脈梗塞と考える。

(2) 脳室周囲静脈梗塞の原因と発症時期を特定することは困難であるが、出生までのどこかで生じた胎児の脳の低酸素や虚血、または出生後に生じた血圧変動による循環不全の可能性がある。

3. 臨床経過に関する医学的評価(2020 年 4 月改定の表現を使用)

1) 妊娠経過

妊娠中の管理は一般的である。

2) 分娩経過

(1) 搬送元分娩機関において、妊娠 35 週 0 日の妊婦健診で胎児心拍数異常と胎

動減少を認め当該分娩機関へ母体搬送を行ったことは一般的である。

- (2) 当該分娩機関へ入院後の対応(内診、超音波断層法、血液検査)、および診察所見と搬送元分娩機関の胎児心拍数陣痛図所見から胎児機能不全と診断し緊急帝王切開を決定したことは、いずれも適確である。
- (3) 入院から 51 分で児を娩出したことは一般的である。
- (4) 臍帯動脈血ガス分析を実施したことは一般的である。
- (5) 胎盤病理組織学検査を実施したことは適確である。

3) 新生児経過

新生児蘇生(バッグ・マスクによる人工呼吸)および出生後の管理は、いずれも一般的である。

4. 今後の産科医療の質の向上のために検討すべき事項

1) 搬送元分娩機関および当該分娩機関における診療行為について検討すべき事項

(1) 搬送元分娩機関

なし。

(2) 当該分娩機関

なし。

2) 搬送元分娩機関および当該分娩機関における設備や診療体制について検討すべき事項

(1) 搬送元分娩機関

事例検討を行うことが望まれる。

【解説】 児が重度の新生児仮死で出生した場合や重篤な結果がもたらされた場合は、その原因検索や今後の改善策等について院内で事例検討を行うことが重要である。

(2) 当該分娩機関

なし。

3) わが国における産科医療について検討すべき事項

(1) 学会・職能団体に対して

胎児期から新生児期に発症する脳梗塞(脳室周囲静脈梗塞)の原因究明を

推進することが望まれる。

(2) 国・地方自治体に対して
なし。